



平成30年3月1日現在

世帯数	6,117戸
人口	15,754人
男	7,592人
女	8,162人

波田柔道クラブ 寒稽古と餅つき開催される

波田柔道クラブは、月曜日と木曜日の週2回、波田体育館の柔道場で各種大会に向けて、午後7時30分から9時まで練習を行っています。

1月28日には最低気温がマイナス10℃という厳しい冷え込みの中、毎年恒例の寒稽古と餅つきを行いました。インフルエンザの猛威の影響により、一時は開催が危ぶまれたものの、保護者の協力のもと無事に開催できました。例年餅つきは、波田公民館をお借



寒稽古の様子

りして行っていました。公民館の移転に伴い今年の餅つきは地区の町内公民館をお借りして行いました。

当日はインフルエンザのため急遽欠席する児童もいましたが、小学2年生から高校3年生までの選手13名が出席し、指導員のもとと小学6年生が指揮をとり、準備運動の後立ち技を中心とした稽古を2時間程行いました。選手達は指導員の熱のこもった指導を受け、皆真剣な眼差しで稽古に打ち込んでいました。

その後地区の町内公民館に移動して、寒風吹きすさぶ寒空の下、選手達は柔道着姿で大人の掛け声に合わせて「よいしょ、よいしょ」と大きな声を出して、低学年は子ども用の杵を、高学年以上は大人用の杵を力一杯振り下ろしました。つきあがった餅は、保護者がきな粉やあんこで味を付け、各自が持ち寄った食材で作って頂いた保護者特製の豚

第2回
地域づくり
シンポジウム

2月17日(土)に波田公民館にて地域づくりシンポジウムが開催されました。その中で事例発表として、21区町会



餅つきの様子

汁や自家製の漬物とともに振る舞われました。巨大な両手鍋で作られた豚汁は、具沢山でとてもおいしく、皆おかわりをしていました。やはり木製の臼と杵を使用し、自分達でついた餅の味は格別でした。子ども達は皆大きな口を開け、おいしそうにほおばっていました。

食後は恒例のビンゴ大会が開催され、今年は例年になく豪華な賞品で大変盛り上がりしました。大人も子どももキラキラと目を輝かせ、厳しい稽古中とは打って変わり、参加者全員でとても楽しいひとときを過ごしました。

のきずな」として8年前梓川高校放送部の生徒たちによって作られたドキュメンタリーを萩原町会長のナレーションとともに上映しました。会場は年配の人達を中心に満員でした。

21区は開拓移民として中国旧満州に渡り日本の敗戦により引揚者となった人達を中心となつて山林を切り開いて開墾された開拓地です。着の身のまま何も無く、お互いに食うや食わずの苦しい生活の中、それぞれの家族が助け合い、支えあつて現在の集落を築いてきました。



DVDの上映

DVDでは当時の事を語る方達の証言がありました。その方達も今は存命者も少なく、家族の中心は2世3世となつて、実体験を知る人は僅かとなっています。辛苦を克服してきた素晴らしい団結の力、気よりの良さ」という「絆」によって、立派に受け

継がれている様子が上映されていきました。今再び梓川高校1年3組の生徒が、授業の一環として若い染野先生を中心に、この戦争や平和の歴史を学び次の世代へ伝えていくため満蒙開拓の歴史を「紙芝居」にしています。波田地区出身の小林市議の協力を得て、関係者たちとプロジェクトを結成して昨年未頃より取り組んできました。町内公民館に集まって、体験者から聞き取り調査を行いました。NHKと信濃毎日新聞の取材もあり、17日付の信州ワイド欄にも掲載されました。敗戦からの逃避行での悲惨で厳しい話があり、熱心に真剣に質問をしている姿は、印象的で感心しました。7月頃の完成を目指しています。



聞き取り調査の様子

4区

三九郎



1月13日(土)に氷点下8度と寒中のような寒さの中、三九郎保存会と小学生の小学生の正月の行事である三九郎が行われました。

保存会メンバー25人程が午前8時30分に集合し、各自道具を持参して材料の調達に向かい、三九郎作りに取りかかりました。保存会メンバーによると、昔は子ども達だけで何日もかけて作ったそうです。私は35年程前に4区に転居したので分かりませんが、皆さん楽しそうで、大人の遊びの様でした。子ども達も繭玉を手で大勢集まりだし、PTA役員と一緒にダルマ・松飾り・書き初めなど仕分け作業に参加しました。



燃えさかる三九郎

2時間程で大小2つの見事な三九郎が完成しました。一昨年までは夕方暗くなつてから点火していましたが、時代の流れか地元消防団の見守る中、11時に最年長の6年生が

点火、竹の弾ける音とともに冬晴れの空に見事に燃え上がりました。



おいしそうな繭玉

炎が下火になると子ども達が繭玉をかざし、焼き上がるのと熱い熱いと言いがらおいしそうに食べていました。

終了すると、子ども達や保存会メンバーは町内公民館に移動し、子ども達はお母さんの作った豚汁やおにぎりを賑やかに楽しく頂きました。保存会メンバーも別室でおいしいお酒を頂きながら、大人も楽しい時間を過ごしました。あつという間の一日でした。メンバーの平均年齢は60代半ばで、いつまで続けられるのでしょうか。

最後に、今年一年が無病息災・豊作・平和で災害の無い一年でありますように!!

ポイ捨てをやめて美しい波田を

最近海外のサッカークの試合などでゴミを捨てる日本人の行動が賞賛されていますが、ここ波田においてはまだまだゴミをポイ捨てする人が多くいます。

田んぼや畑の春一番の仕事は、道路から捨てられたゴミ拾いから始まります。春先になり雪が溶けると、雪の下から捨てられたビニール袋や空き缶などが出てきます。自転車の通学や通勤途中で、要らなくなったおにぎりの包装紙・ビールの空き缶・ドリンクのボトル・煙草の吸殻が詰まったビニール袋・中には郵便物や住所氏名が載っている給与明細などもあります。

こうしたゴミを拾いながら思うのは、ゴミは捨てた人の分身で捨てた人をよく表しているということ。煙草の吸殻と重要な郵便物が一緒に捨ててあるのは、身の回りのことがきちんと整理できていないのでしょうか。きっとポイ捨てをする人は誰も見ていないからいだろうと捨てるのでしようが、実は周囲の人も気が付いているのです。ゴミ拾いをしながらこれ

でまた一つきれいになったなと気持ちがよくなります。汚物を片付けただけで美しい景観になるので少しは役に立つことをした気がします。

遠方から美しい梓川や田園風景を見にいらつしやる方がふと足元に捨てられたゴミを見たら、住人もやっぱりそれなりなんだと判断されてしまいます。逆に波田の人が他所へ行った時にゴミを捨てる人が多くなれば、波田の人は偉いねと賞賛されるでしょう。

これからはポイ捨てをするほうではなくて、ゴミを捨てる人間でありたいです。もっと人知れずゴミを捨てる人が増えると良いと思います。波田は梓川や山の景色だけでなく、住人もやはり美しいということになれば良いと思います。



雪花たばしる川辺に



現在波田まちづくり協議会において、情報発信の場としてのホームページ作成プロジェクトが進行しています。平成30年10月がサービス開始の予定です。

内容としては波田地区のイベント情報・イベントの報告・公共機関の情報・景勝地やサークルの紹介・カレンダーや配布物のアーカイブ・ハザードマップなどを随時公開していく予定です。

老若男女・新旧住民の交流の場として活用されるのも一つの目的となっていますが、現状は構成メンバーが老男に偏っています。若男女の意見・要望も取り入れたいことと、特にイベントの報告の記者となつて記事を書くことに興味がある方、パソコンが趣味でホームページ作成に興味がある方のボランティアとしての参加を募集しています。連絡先は波田地域づくりセンター事務局(電話922-3001)です。

波田地区は新規住民が増えています。正確な情報が行き渡り、また住民間の交流を盛んにすることが大切だと思います。是非ともご参加ください。